

| 方針と重点 | 市の基本施策 | 学校の教育目標 | 育てたい資質・能力 | 基本施策との関わり | 本年度新たな学校の重点 | 具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか) | 評価 A S D | 分析と改善点 | | | |
|-----------------------------------|--|-----------------|-----------------------|-------------------|--|--|-------------------|---|---|---|--|
| 方針・重点・郷土高山に根ざし、未来を切り拓くための資質・能力を育む | ①深い学びを実感できる授業への挑戦 ②一人ひとりの子に居場所をつくる ③地域の生きと働ける社会づくり ④生き生きと働ける学校づくりへの発信 | 「やさしくかしこくたくましく」 | 自分らしさを発揮し、集団の中で活躍できる力 | 希望・願いをもつて学ぶ | ③ 「ふるさと科」での探究的な学び | 子どもが自分の希望や願いを実現するための方法を探究し、自らの学びを発信することができる、総合的な学習のカリキュラムを再構築する。 | B | ・「ふるさと科」で地域内外の講師から岩滝の見どころや魅力、地域の思いを伝えてもらったことで、当事者として個々の課題に対する探究活動に取り組むことができた。今後は、学びを発信する必然性を明らかにしたうえで、総合的な学習のカリキュラムを再構築する必要がある。 ・「子どもたちで進める学習ができる」と答えた子が11人中8人いたことから教師が支援する授業が進んでいる。 ・個々の教師がそれぞれ担当する教科の研究を進めてきた。今後は、道徳や総合的な学習のようにどの担任も指導する機会のある授業を中心にへき地複式教育の研究を進めていく。 | | | |
| | | | | ① ICTを活用した学習支援 | 夏休み前後から導入予定の学習支援サービスを活用し、「教師が主導する」授業から、「教師が支援する」授業への転換を図る。 | A | | | | | |
| | | | | ①④ 教科書の分析による教材研究 | 隔週水曜日に、教科担任全員で一教科の教科書から授業の展開を考え教材を分析する。特に、授業で子どもが何を願い、子どもにどんな力をつけるべきかという視点で分析する。 | B | | | | | |
| | | | | ② 一人一人が大切にされる学校経営 | 年度末の自己評価項目「学校に通うのは楽しい」を100%になるよう全職員で努める。 | B | | | | | |
| | | | | 自他のよさに気づく | ② 不登校予防・対応 | 子ども・保護者と教職員との信頼関係を強くするとともに、「お話タイム」や各種アンケートを活用して早期発見・予防に努め、不登校児を最小限にとどめる。 | B | ・「学校は楽しい。」と答えた子が11人中6人、「時々楽しいと思う。」と答えた子は1人で、当初の目標に届かなかった。その要因としては「学習が時々わからない。」「仲間関係で困っている。」などという児童個々の思いに十分に配慮できていないことが考えられる。今後は学習支援の改善を図りつつ、社会性の発達を支援するプログラムを導入するなど組織的・計画的な生徒指導を充実させる必要がある。 ・「互いへの思いやりができています」と答えた子は11人中6人だった。「一人一人が大切にされていると子どもたちが実感できているか」という視点で学校経営を見直すとともに、地域や学校外部の教育力を活用するなど人権教育の幅を広げていく。 | | | |
| | | | | ② 思いやりや感謝の心を育む | 教職員や保護者が子どもの人権を尊重する姿・言動を、子どもに対して示す。 | B | | | | | |
| | | | | 挑戦し続ける | ② 挑戦し続ける心 | 子どもがそれまでに経験したことのない新しい活動や、粘り強さが求められる活動を、学校生活のあらゆる場面で設定する。 | B | | | | |
| | | | | | | | | ③ ふるさとの魅力や価値を知り、伝える | 東小学校との統合を視野に入れ、地域の魅力や価値を発見し、地域内外の人に伝える活動を取り入れる。 | A | ・「希望が生まれ、希望がかなう学校」を示したことで、新しいことに挑戦する子の姿が見られるようになった。また、教科担任制を導入したことで、粘り強く学習に取り組む姿も見られるようになった。 ・地域の思いを知り、その思いと学習を結びつけることができた。また、岩滝の魅力や価値を伝える活動も充実していた。 ・月に1回程度の東小との直接交流や、東小、郡上市立石徹白小、下呂市立馬瀬小、飛騨市立宮川小とのオンライン授業交流の機会を設けたことで、多様な考えや価値観にふれ、子どもが自分の思いを相手に伝えることができた。 |
| | | | | | | | | ② 高山市内外の他校との交流の充実 | 他校との直接交流やオンライン交流を通して、自分らしさを発揮し、集団の中で活躍する場や機会を充実させる。 | A | |

学校運営協議会における主な評価内容

- ・東小との編入に向けて学校が努力している姿がよく分かった。今後、期間を長くして直接交流を進めてほしい。
- ・子どもたちのタブレットPCの使い方が大人が驚くほど上手で、学習活動に効果的に取り入れているのがよい。
- ・人間関係のトラブルがあっても乗り越えられる子どもを育てたい。